

# 万葉集

[vol.57]

日本に現存する  
最古の和歌集「万葉集」を  
わかりやすくご紹介します



## 吉野 よく見よ



よき人のよしとよく見てよしと言ひし  
吉野よく見よよき人よく見つ

【訳】

立派な人がよい所としてよく見て「よし(の)」と言った。  
この吉野をよく見るがいい。立派な人もよく見たことだ。

天武天皇 巻一 二七番歌

この歌は天武天皇が詠んだ歌で、

『万葉集』には天武天皇八(六七九)

年五月五日に吉野宮に行幸した際の  
歌だと記されています。

『日本書紀』によると、その年五月

五日に吉野宮へ行幸したこと、翌六日

に、草壁皇子・大津皇子・高市皇子・  
河島皇子・忍壁皇子・芝基皇子の六

皇子らと争いをせずお互いに助け合う  
と盟約したこと、が記されています。

このときの行幸先だった吉野とは、

壬申の乱で大海人皇子(後の天武天  
皇)が兵を挙げた地でもありました。

壬申の乱とは、天智天皇の息子の大  
友皇子と弟の大海人皇子との間に

起こった皇位継承争いです。天智天  
皇が亡くなる前に、大海人皇子は皇

位を継ぐ気は無いことを示すため出  
家して吉野に隠遁したといえます。そ

れでも天智天皇亡き後に争いが起  
き、大海人皇子は吉野で挙兵、各地

を転戦しながら味方を増やし、大友  
皇子側に勝利した、と乱の経緯がこ

と細かに『日本書紀』に記されている  
ことでも知られます。

この歌はまるで早口言葉のようで、  
繰り返す声に出すと面白く感じます  
が、ふざけていたのではなく「よし」と  
いう言葉を重ねることに意味があった  
とみられます。

当時はひらがなやカタカナがない時  
代でしたので、元々は「淑人乃 良跡  
吉見而 好常言師 芳野吉見与  
良人四来三」と、外来の文字であった  
漢字で書かれ、六種類の「よし」が記

されてもいます。歌を記したのが別人  
であった可能性はありますが、少なく  
とも「よし」の繰り返しには、自らの  
出発点となった吉野の地と自らの治  
世を言祝ぐ意図があったと考えられ  
ます。

壬申の乱を経た後だからこそ、息  
子たちを集めて吉野で盟約を結び、  
こうした歌を詠む必然性もあったと  
いわれています。

(本文 万葉文化館 井上さやか)

万葉ちゃんの

# つぶやき

和歌に  
関連するものを  
紹介するよ!



万葉ちゃん

### 拓美の園

下市中央公園内にある「拓美の園」には、上で紹介した歌を含め、16基(23面)の句碑歌碑が立ち並んでいます。拓本は伝統的な器物を複写する方法のひとつで、拓美の園には、多くの人が採拓(拓本を採ること)に訪れます。

歌碑や句碑、石仏を訪ね、拓本を採り、歴史・文学の世界やかかわった人たちのことを想いながら時を過ごしてみませんか?



※採拓には事前申込が必要です。希望者は下記へ。

問 下市中央公園管理事務所  
☎0747-52-8965  
(火・水曜日、祝日の翌日、年末年始は休み)

問 県広報広聴課 ☎0742-27-8326 FAX0742-22-6904